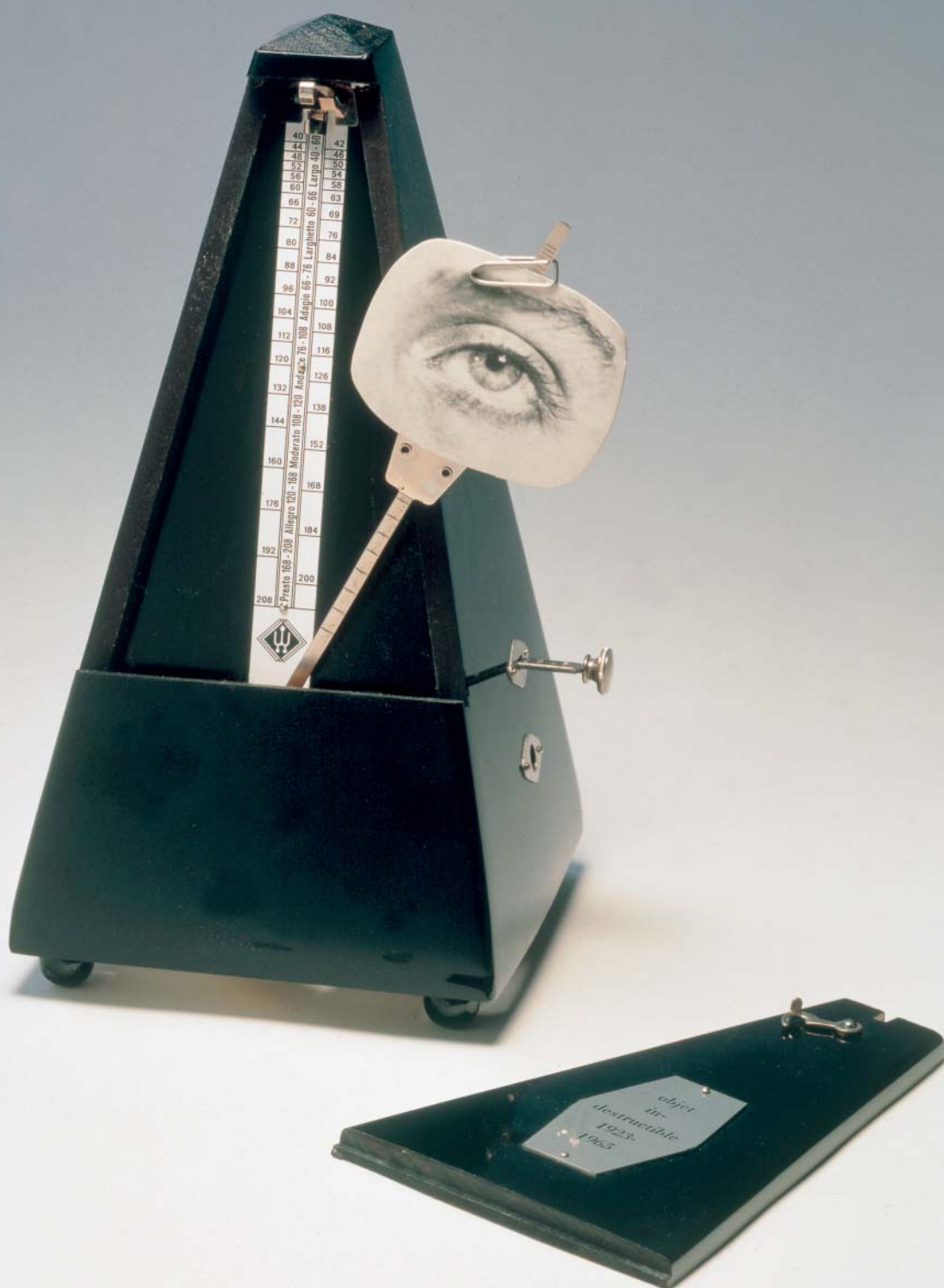


マン・レイ展	[2~5]
「ピカソ、マティスと20世紀の画家たち —フォーヴィスムとキュビスム—」展講演会報告	[6]
レファレンスルーム新着図書のご紹介	[6]
所蔵品によるテーマ展・移動美術館展のご案内	[7]
お知らせ	[8]
貸館情報	[8]
日本まんなか共和国	[8]

〈表紙〉マン・レイ「破壊するべきオブジェ/破壊できないオブジェ」1923/1963年 個人蔵 © Man Ray Trust / ADAGP Paris & JAVCS, Tokyo, 2004



# MAN RAY

I a m a n n

## マン・レイ展

### 「私は謎だ。」

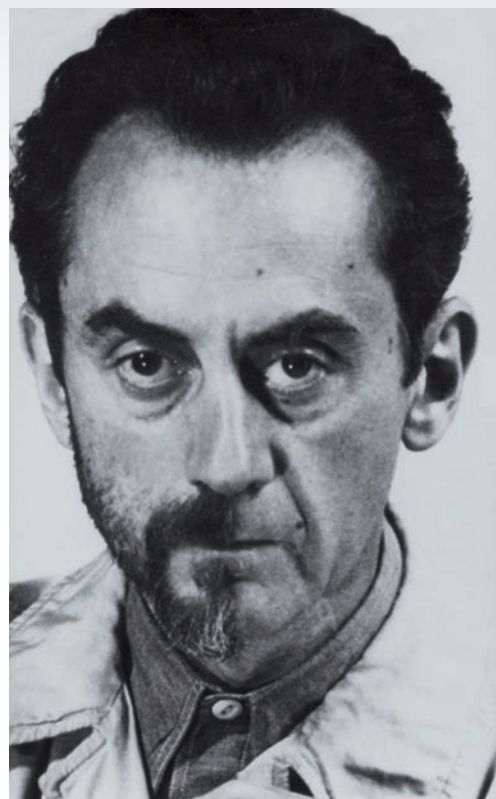
I am an enigma.

主 催：福井県立美術館  
後 援：フランス大使館、福井新聞社、FBC福井放送  
協 力：全日空  
企画協力：株式会社 アートプランニングレイ

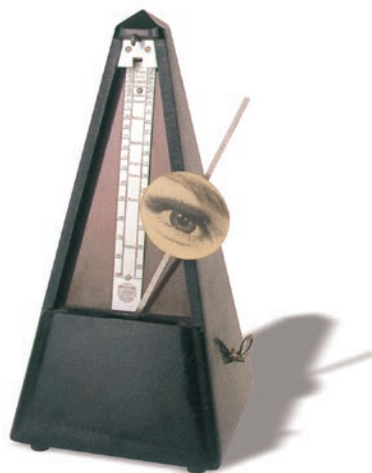
会 期：2004年6月11日(金)～7月11日(日)  
休 館 日：6月21日(月)、7月5日(月)  
開館時間：午前9時～午後5時まで(入館は午後4時30分まで)  
夜間開館：毎週金曜日は午後8時まで開館(入館は午後7時30分まで)

入 館 料：一般 900円・大高生 600円・中小生 300円  
(30名以上の団体は2割引)

展示内容：〈作品〉約280点  
〈映画〉4点  
〈関連資料〉約30点



「前と後」1943年 Collection of Micheal Senft, East Hampton, New York



「永続するモチーフ」1923/1970年 個人蔵  
Perpetual motif



「架空のセルフポートレート ～「自由な手」より～」  
1937/1971年 個人蔵



「セルフポートレート」1916/1970年  
Collection Hanina Bellegarde, Paris

#### 関 連 事 業

##### 《講演会》

● 6月13日(日) 午後2時～

聴講  
無料

### 「マン・レイの謎を楽しむ」

講 師：巖谷 國士(いわやくにお)氏  
本展監修者・明治学院大学教授

##### 《学芸員によるギャラリートーク》

● 毎週日曜日 ※6月13日を除く  
午後2時～3時  
(観覧会チケットが必要です)

##### 《同時開催》

所蔵品によるテーマ展

### 「モノクロームの世界」

(本展チケットにてご覧いただけます。)

##### 《次回企画展》

北斎展(仮称) ●10月8日(金)～11月7日(日)

「マン・レイ、男性名詞。〈喜び・遊び・愉しむ〉の同義」

—— マルセル・デュシャン



「ベシャージュ(桃/風景)」 1969/1972年 個人蔵



「マン・レイ(手・光線)」 1935/1971年 個人蔵



「イジドル・デュカスの謎」  
1920/1975年 個人蔵

イジドル・デュカスとはフランスの詩人ロートレアモン(1846-1870)の本名。彼の「マルドロールの歌」の一節「解剖台の上のミシンと雨傘の偶然の出会いのように美しい」という言葉にインスピレーションをうけた作品。

マン・レイ(1890~1976)は、20世紀を通じて、ダダやシュルレアリスム運動に参加するとともに、絵画から、オブジェ、写真、ファッション写真、映画まで、驚くほど幅広い分野やメディアで活躍したアーティ

ストです。近年その自由で多彩な活動は、今日の美術の先駆けとして、驚きをもって見つめ直されています。

本展では、本人の言葉「私は謎だ。」をキーワードに、300点を超える作品・資料をと

おして、マン・レイの魅力あふれる全体像に迫ります。Man Ray(=人間・光線)と名の変幻自在の芸術家を、21世紀芸術へのまさに光源として紹介します。





「メレット・オープンハイム ルイ・マルクーシスのアトリエで」  
1933年(プリントは後年) 個人蔵



「メレット・オープンハイムの横顔 ソラリゼーション」  
1933年 個人蔵



「ガラスの涙」 1930～33年頃 Collection Jean Bensaoudon, New York



「アングルのヴァイオリン」1924年 個人蔵  
Le violon d'Ingres Photo Credit : Bill Orcutt



「バレエ・メカニック キキ」1924年(プリントは後年) Collection Jean Bensaoudon, New York

「私は謎だ。」 I am an enigma.

マン・レイ、あなたはいったい誰?—

1960年ごろ、姪のフローレンスがこの偉大な伯父に問いかけたとき、すでに老境に達しつつあったマン・レイはこう答えたという。

「私は謎だ。」

若いころに名前を変えて過去を捨て、いつま

でも故郷に帰ろうとしなかった彼は、家族の前だからこそこんなことを言ったのかもしれない。だが、これはじつに意味ぶかい言葉である。私たちもまた、Man Ray (=人間・光線)と名のる変幻自在の芸術家の作品の数々を見て、しばしば入りくんだ「謎」の魅力を感じるからである。

生まれ育ったアメリカに背を向けてフランスへ渡り、いったんは帰国したものの、また旅立ってパリでの生活をまっとうしたマン・レイ。写真

家として最高の名声を得ていながらも、「写真は芸術ではない」と言いはなち、ひそかに絵やデザインを描きつづけていたマン・レイ。

伝統を否定するダダ運動を推進しながらも、過去の芸術への敬愛を隠さず、文学的な発想を捨てようとしなかったマン・レイ。それでも一点ものの油彩に固執する一方で、おなじ主題を何度でも反覆し、自分の作品の「変奏」や「再制作」や複製づくりにいそんでいたマン・レイ。



「レイヨグラフ 金槌と瓶」1966年 Collection Eva Zerbib



「ミスター・ナイフとミス・フォーク」1944/1973年 個人蔵

この展覧会は、大多数の人々に向けたものではありません。それどころか、少数の人々——あるひとりの個人の思いを受けいれてくれるだけ寛大な、ごくわずかな人々——に向けたものですらないのです。この展覧会は、ひとりの個人へ、ただひとりの他の個人に——つまり、いまここにいるあなたに向けてひらかれています。私は数という観点から物を考えたり感じたりすることができません。もうひとりの個人という以上のものと協調しあうことは、私には不可能です。あとはおたがいの信頼関係、これさえあればいいのです。

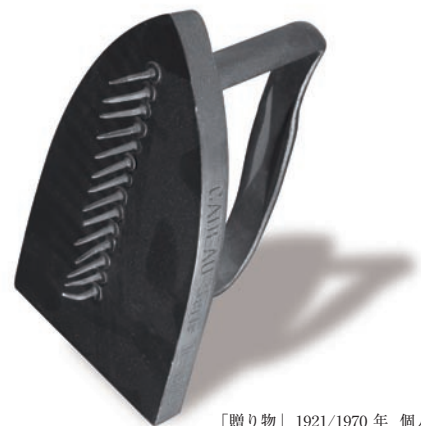
マン・レイ 1972年

※これは1972年、パリの国立近代美術館で催された最初の回顧展の折に書かれた言葉。

© Man Ray Trust / ADAGP, Paris & JAVCS, Tokyo, 2004



「われわれすべてに欠けているもの」1927/1962年 個人蔵



「贈り物」1921/1970年 個人蔵

カメラという機械の目で対象を客観的にとらえ、技術よりも偶然とアイデアを重んじていながらも、同時にたえず自分自身を問いつづけ、すべての作品に自伝的な要素を忍びこまざるにはいられなかったマン・レイ。だが、決して一定の「様式」をもととはしなかったマン・レイ。

「私は矛盾そのものでありたいし、非合理的でありたい。」

このように語るマン・レイは、そうしたさまざま

な矛盾をかかえていたからこそ、積極的にまた情熱的に生きることができた。愛や苦悩もあれば遊びもある、親密で詩的で機知に富んだ彼の作品は、まさにその多様性、反覆性、非合理性、等々によって、今日の芸術と文化に測り知れない影響をおよぼしている。

実際、マン・レイの生涯と作品のかもしれない眩惑的な「謎」のうちに、20世紀という怪しい時代そのものがのぞき見える。いまやマン・レイは

私たちの目に、彼の生前以上に身近な人間(=Man)として——また軽くて深くてクールで暖かく、驚くほど活力にみちた複雑な心をもつ現代の巨匠として映っている。

(巖谷國士 いわやくにお/本展監修者)

# ピカソ、Fauvisme マティスとCubisme 20世紀の画家たち フォーヴィスムとキュビスム

講演会

## 「ピカソが封印した キュビスムの謎」

4月29日(木・みどりの日)  
講師:北川 健次氏(美術家・作家)  
午後2時~ 於:当館講堂



■ 北川 健次氏によるレクチャー

4月19日(木・みどりの日)に当館講堂で、北川健次氏を講師に迎え「ピカソが封印したキュビスムの謎」と題された講演会が開催されました。130人以上の人が聴講し会場は熱気に包まれました。

北川氏は福井県出身の版画家・オブジェ作家で、近年は美術研究に関する文筆でも活躍しています。版画家としては、すでに現代日本を代表する版画家の一人としての評価を受けていますし、またオブジェも高い質と独特の魅力を持っており、その作品は多数の美術館に收藏されています。また文筆の分野でも、フェルメールやダ・ヴィンチ、デューラ

ーなどの作品について、作家の目を大事にしながら、ユニークで質の高い研究をしています。

今回の講演では、特にスペインの小村カダケスを中心に話をしてもらいました。カダケスは特殊な磁場を持っており、ここを訪れた著名な芸術家は数多く、特にガウディ、ダリ、デュシャンそしてピカソ等の芸術家たちにとってはカダケスは創作上非常に重要な意味を持っている、という趣旨で北川さんの講演は始まりました。最初ピカソ以外の芸術家とカダケスとの関わりを中心に話が進み、徐々にピカソとキュビスムとカダケスとの

関係に話に移りました。要点は、ピカソがキュビスムを開発した秘密は、実はカダケスの町並みにあるということで、カダケスにある建物がまるでそのままキュビスム作品と言っていいような建て方をされている、ということでした。確かにピカソの年譜では、1910年の夏にカダケスを訪れており、映像や資料に基づいた北川さんの話は大変興味深く、あっという間に講演時間が終わってしまいました。



## レファレンスルーム新着図書のご紹介

昨年亡くなられた当館初代館長清水英夫氏のご遺族より、『日本美術院百年史』(全15巻)をご寄贈いただきました。岡倉天心指導のもと、新しい日本画の創造を目指した日本美術院(院展)の歴史が、詳細な資料と豊富な図版で綴られています。美術館2階レファレンスルームに配置しましたので是非ご利用下さい。



## 「モノクロームの世界」

会 期:平成16年5月29日(土)~7月12日(月)

今回の所蔵品によるテーマ展「モノクロームの世界」では、江戸初期の福井藩の御用絵師狩野了之が描いた水墨画《山水図》や、霊的幻想や精神世界を象徴的に表現したイギリスの画家ウィリアム・ブレイクの版画《ヨブ記》、ハイコントラストのブレ、ボケを利用した白黒写真を組み合わせて日常を多面的に捉えた森山大道の《につぼん劇場Ⅱ》など、モノクロームで表現された様々な技法による多様な作品を紹介いたします



ウィリアム・ブレイク「ヨブ記」



狩野了之「山水図」

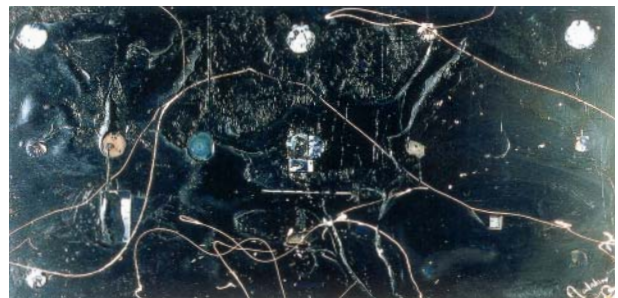


森山大道「につぼん劇場Ⅱ」

## 移動美術館

福井県立美術館では、当館所蔵のコレクションを嶺南地方の方々にも身近なものとして鑑賞していただくことができるよう、「移動美術館」を行います。今回の展覧会では、平成15年度の新収蔵作品と三上誠の作品を展示します。

本展が多くの県民の皆さんにとって、芸術文化により深く親しむ上で、またとない機会になれば幸いです。



小野忠弘「無題(BULE)」

### 小浜展 1

会 期:6月23日(水)~7月4日(日)  
※会期中無休  
会 場:福井県立若狭歴史民俗資料館  
小浜市遠敷2丁目104  
tel.0770-56-0525  
時 間:午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

### 敦賀展

会 期:8月18日(水)~31日(火)  
休館日:8月23日(月)・8月30日(月)  
会 場:敦賀市立博物館  
敦賀市相生町7-8  
tel.0770-25-7033  
時 間:午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料:一般・大学生 100円 高校生以下・70歳以上・身体障害者の方は無料

# お知らせ

## <6～9月の休館日について>

館内メンテナンス・燻蒸・展示作業等のため、  
**6月21日(月)・7月5日(月)・13日(火)～22日(木)・8月9日(月)・31日(火)・9月1日(水)・13日(月)**は、  
 臨時休館とさせていただきますのでご了承下さい。

### 貸館情報

6/ 3～6/ 6	第54回 県書道展・ 県現代書作家展	8/ 4～8/ 8	第30回 福井県水墨画協会展 はじめての作品展	8/27～8/29	第6回 アルトラカイ作品展
6/10～6/14	第15回 武蔵野美術大学校友会 福井県支部展	8/ 4～8/ 8	八洲書の歩み	9/ 2～9/ 5	第45回 九龍社書展
6/17～6/20	プレアデス会洋画展	8/11～8/15	(社)福井県建築組合連合会 会員美術展	9/ 2～9/ 5	第19回 日本画爽展2004
6/23～6/27	福井県写真作家連盟展	8/11～8/15	第19回 沙久羅会日本画展	9/ 2～9/ 6	創元会福井支部展
6/30～7/ 4	第5回 ひろの会日本画展	8/12～8/15	第1回 大東文化大学 福井県人書道展	9/ 8～9/12	第29回 日本墨書会選抜書道展 「春日貞彦・辻川杏花」個展
7/ 8～7/11	アトリエ・ターコイズ	8/19～8/22	第25回 書玄会展	9/ 8～9/12	第37回 福井県学生書道展
7/23～7/25	第30回 福井県デザイン コンクール作品展	8/20～8/22	“古布と遊ぶ” クラフト 掛軸とパッチワーク展	9/14～9/19	第57回 示現会巡回福井展
7/23～7/25	第32回 福井県朝日写真展	8/20～8/22	遊和会書展	9/15～9/20	玲風会日本画展
7/24～8/ 1	松原祐一遺作展	8/25～8/29	第5回 力カ・斜展	9/16～9/20	第2回 夢美の会 & グループY-wai合同展
7/28～8/ 1	グループF作品展	8/25～8/29	第44回 べんべん会展	9/24～9/26	杉本邦雄能面展
7/29～8/ 1	第4回 創美の会洋画展	8/26～8/29	第18回 白桦会洋画展	9/30～10/3	第34回 若越書道会展
8/ 3～8/ 8	クロカワ三博の抽象画展				第54回 福井書法展

### 広報板

## 日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

### 滋賀県立近代美術館

大津市瀬田南大萱町1740-1 TEL:077-543-2111

#### 開館20周年記念展 コピーの時代 6月5日(土)～9月5日(日)



森村泰昌「Mのセルフポートレイト No.56/B (あるいはマリリン・モンローとしての私)」  
1995年 作家蔵

1980年代以降の現代美術を考えるキーワードとして、過去の作品や現代社会の様々な図像をそのまま利用し、新しい文脈のなかで生かす「引用と複製」の美学を取り上げ、先駆者デュシャンから1960年代ポップ・アートのウォーホルらを通じて、現代のアーティストらの方法論へと続く道のりを明らかにする。

一般1,100円(900円)／高次生900円(700円)／小中生700円(500円)  
※括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金

#### 滋賀県美術作家協会展 9月14日(火)～9月19日(日)

### 岐阜県美術館

岐阜市宇佐4-1-22 TEL:058-271-1313

#### 第58回岐阜県美術展

入場  
無料

一般部:5月29日(土)～6月 6日(日)  
 青年部:6月10日(木)～6月13日(日)  
 少年部:6月17日(木)～6月20日(日)

#### ウィリアム・モリスと アーツ・アンド・クラフツ展 7月17日(土)～9月5日(日)



ウィリアム・モリス「織物」

工芸品から家具、建築デザインまで幅広く手がけ、日常生活全般を総合的にデザインした、近代デザイン創始者ウィリアム・モリスと、当時のアーツ・アンド・クラフツ運動による芸術を、ステンドグラス、織物、家具、壁紙、銀器、ガラス器、タイル、書籍などによって多角的に紹介します。

一般1,000円(900円)／高次生700円(600円)／小中生500円(400円)  
※括弧内は、20名以上の団体料金

#### 熊谷守一寄贈作品資料展(仮称) 9月17日(金)～10月31日(日)

岐阜県歴史資料館と共同企画で、両館に新たに寄贈された郷土ゆかりの画家・熊谷守一の主な作品および資料をご紹介します。

一般700円(600円)／高次生500円(400円)／小中生300円(200円)  
※括弧内は、20名以上の団体料金

### 三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059-227-2100

#### エミール・ノルデ展 6月5日(土)～7月4日(日)



「ケン」制作年不詳

ドイツ表現主義の巨匠エミール・ノルデ(1867～1956)の芸術を、ドイツのノルデ美術館のコレクションの中から選りすぐった水彩画と版画約120点によって紹介する。

一般1,000円(800円)／高次生800円(600円)／小中生350円(250円)  
※括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金

#### ステキな視界・新たな世界展 ～三重県立美術館コレクションより～ 7月10日(土)～8月29日(日)

新しい視覚世界の発見と体験をテーマに、コレクションの代表作品を紹介します。

一般500円(300円)／高次生400円(200円)／小中生 無料

#### まつり・祭・津まつり展 9月11日(土)～10月11日(日)

ニューヨーク・パブリックライブラリーが所蔵する江戸時代の津八幡宮祭礼絵巻を中心に、津と近代都市の祭礼に関する作品約90点を紹介。

一般900円(700円)／高次生700円(500円)／小中生500円(300円)